

カーボンニュートラルに向けた取り組み

伊藤哲浩^{*1}, 佐村洋平^{*1}

Our Efforts Toward Achieving Carbon Neutrality

Tetsuhiro Ito^{*1}, Yohei Samura^{*1}

要旨

世界中でカーボンニュートラルに向けた動きが進む中、企業のカーボンニュートラルに向けた動きも加速してきている。豊田合成においては、1949年創立以来、「限りない創造、社会への奉仕」の社是のもと、経営理念に「地球環境・資源の保全」を掲げ、企業活動を通じて地球環境・資源の保全に取り組んでいる。本稿では、豊田合成における2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みについて紹介する。

Abstract

Countries around the world have been accelerating their transition towards carbon neutrality, and companies have been increasing their efforts to achieve it. Since the time it was founded in 1949, Toyota Gosei has been committed to environmental protection and resource conservation through its business activities, incorporating “Conservation of global environment and resources” into its Management Philosophy of “Boundless Creativity and Social Contribution.” Toyota Gosei’s efforts to achieve carbon neutrality by 2050 are introduced in this report.

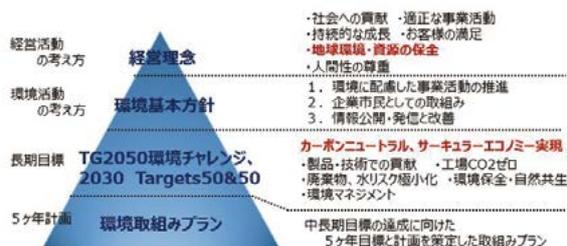
1. はじめに

世界中で発生する異常気象により世界でカーボンニュートラル（以下、CN）の動きが加速している。2021年8月、IPCCの第6次評価報告書¹⁾によると、人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がないとしている。このような地球規模の課題に対して、各国政府、企業、金融業界などあらゆるところで動きが加速している。各国はガソリン車の廃止を宣言し、企業もCNの宣言や達成時期の前倒し、ライフサイクル全体での取り組みをサプライヤーに要請、金融業界でのESGをはじめとする環境の取り組みを企業価値として評価に取り入れるなど、

ますます取り組みが加速するとみられる。我々も環境基本方針をもとに、「TG2050環境チャレンジ」や「2030年マイルストーン」を見直しながら取り組みを進めている。本稿では豊田合成のCNに向けた取り組みについて紹介する。

2. CNに向けたマイルストーン

2016年2月、「TG2050環境チャレンジ」を公表し、脱炭素社会の実現に向け2050年工場CO₂極小化を宣言した。また、2020年4月には中間目標「2030年マイルストーン」を策定し、CO₂排出量を43%削減する目標を公表した。更に、昨今のCN加速を受け、2021年4月、「TG2050環境チャレンジ」に掲げた工場CO₂極小化を工場CO₂ゼロとし、2050年CNを宣言した。また、2030年の中間目標についても、CO₂排出量目標を50%削減に引き上げ、更に重点取り組みとして再生可能エネルギー由来の電力利用率についても2030年に50%とする「Targets 50 & 50」を公表し、CNに向けてチャレンジングな姿勢を示した。



図－1 環境活動の基本的な考え方

*1 カーボンニュートラル・環境推進部 カーボンニュートラル戦略室

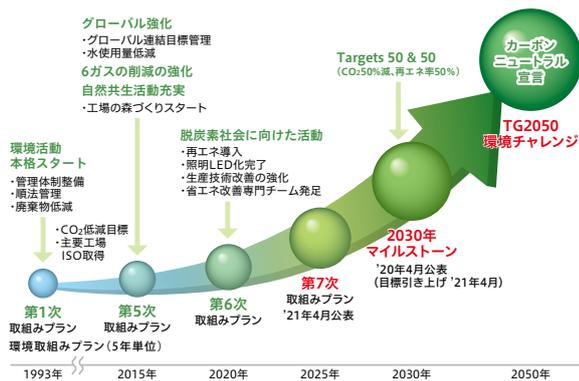


図-2 CN 実現に向けた中長期シナリオ

3. 組織・体制

2021年6月、豊田合成グループ全体でのCNを推進するため、「環境部」を「CN・環境推進部」に名称を変更し、CN戦略室を新たに設置。また、材料・製品開発や生産工程でのCN推進に向け、CN開発推進室及びCN生産工程推進室を新設。更に、社長を議長とする全社横断プロジェクトを発足し、CN達成に向けた体制強化を実施している。

4. 重点取り組み

製品ライフサイクルでのCN実現に向け、3つの重点取り組みを実施している。

4-1. 使用材料のCO₂ 排出量削減

樹脂・ゴムの専門メーカーとして、資源の有効利用とCO₂ 排出量の少ない材料利用として、廃材のリサイクルとその利用を推進している。特に、ゴム廃材は、ゴムが硬化しリサイクル材料としての利用が困難だったものを、脱硫再生技術を開発し、ゴム廃材のリサイクルを実現。リサイクル材料として製品への活用を実施している。その他、社内外のリサイクル材料の活用やバイオ材料の利用についても積極的に推進している。

4-2. モノづくりにおけるCO₂ 排出量削減

スコープ1, 2のCO₂ 排出量削減に向け、4つの柱を掲げ活動を推進している。エネルギーロス極小化に向けた日常改善(柱1)およびユーティリティ更新(柱2)、使用エネルギーの極小化に向けた生技革新(柱3)、CO₂ を排出しないエネルギー利用として再生可能エネルギーの導入(柱4)、これらの4つの柱毎に目標を設定し、CO₂ 排出量削減を推進している。

4-3. 購入部品のCO₂ 排出量削減

スコープ3の購入部品のCO₂ 排出量削減に向け、製品単位でのCO₂ 排出量の見える化を推進している。製品単位のCO₂ 排出量を見える化し、重点取り組み製品および部品を明らかにし、スコープ3のCO₂ 排出量削減の方策立案に向け推進している。

5. おわりに

企業としての社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めるため、2050年豊田合成グループ全体でのCN達成に向け、CO₂ 排出量削減に向けて積極的な取り組みを推進していく。

参考文献

- IPCC 第6次評価報告書 政策決定者向け要約 (SPM) の概要 別添1 (2021)

著 者



伊藤哲浩



佐村洋平